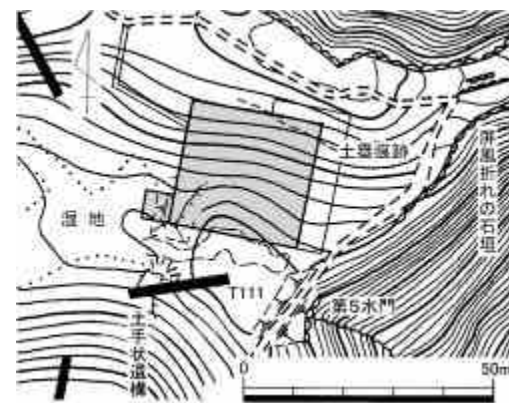


調査速報！ ～C1区 土手状遺構の調査～

第5水門の裏の谷では、両側から土手状の高まりが張り出してあり、中央の途切れた部分を水が流れています。平成11年度に南側の高まりを調査したところ、側面に石垣や敷石が検出されました(右図のT111)。現在調査している北側でも同様の石垣と敷石が見つかり、土手が崩れないための補強がなされていたことが確認されました。この土手状遺構は、内側に湿地があることから、もとは貯水池の堤だったと考えられます。普段は土手を閉め切って水を溜め、必要に応じて水門へと排水していたのでしょう。

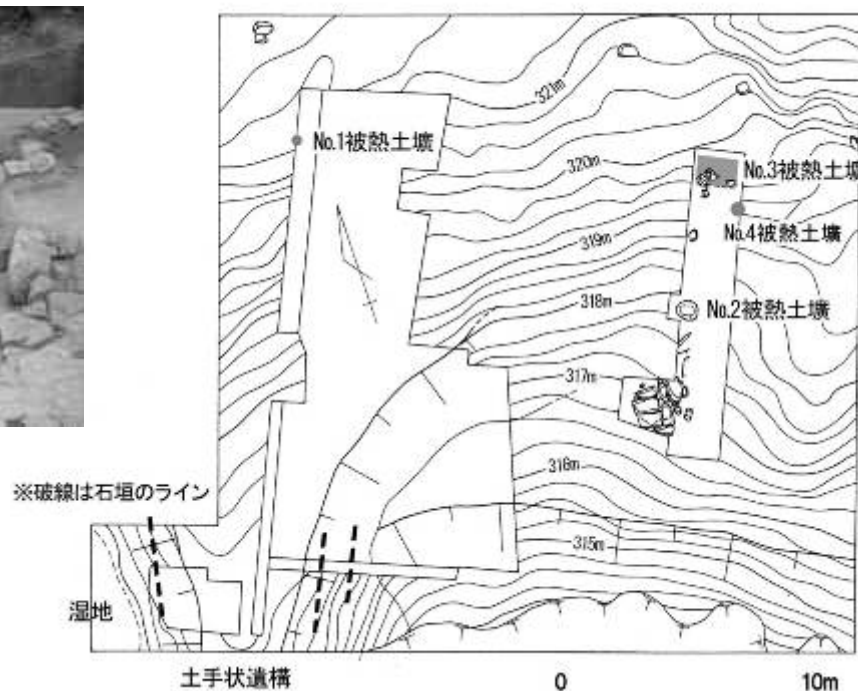


C1区的位置 (1/1,500)

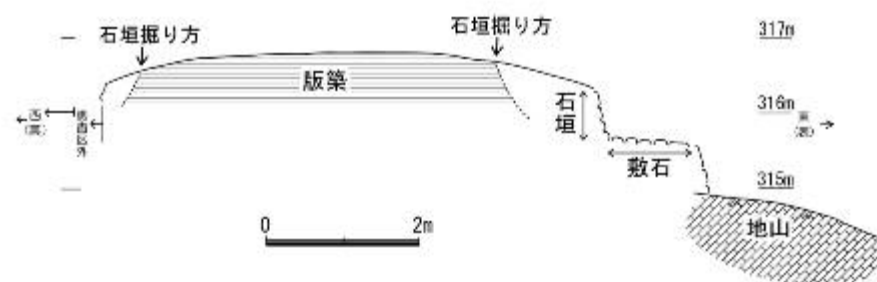


土手状遺構(東から)

土手状遺構は谷を仕切るように築かれ、長さは約30mで中央部が途切れています。今回調査中の北側部分は長さ約9m、基底部の幅は10m以上、地山からの高さは約2.2mです。



C1区全体図 (1/300)



土手状遺構の断面(模式図、1/100)

土を少しずつ盛って突き固める方法(版築)で築かれており、城壁の築き方と似ています。石垣は表側と裏側の両方にあります。また、表側石垣の前面には平らな石が丁寧に敷き詰められています。



石垣前面の敷石(南から)

※調査中のため、上記内容は変更となる可能性があります。

〈お問い合わせ〉 岡山県古代吉備文化財センター 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3
 電話 086-293-3211 FAX 086-293-0142
 ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

甦る！古代吉備の国

謎の鬼ノ城 城内調査大公開 vol.X

平成22年9月6日(月)～12日(日) 岡山県古代吉備文化財センター

ようこそ！鬼ノ城へ

岡山県古代吉備文化財センターでは、「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業を平成18(2006)年度から行っています。この発掘調査の成果を知り、岡山県が誇る歴史と文化を再発見いただくため、調査現場を公開いたします。

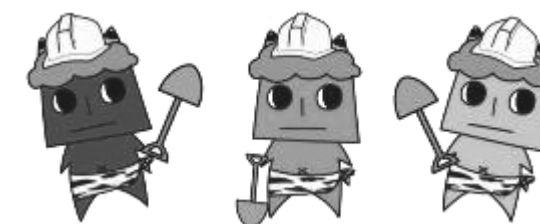
鬼ノ城ってなに？

鬼ノ城は、今から1,300年あまり前につくられた城です。吉備高原の南端、標高約400mの鬼城山山頂に位置しています。

西暦663年、朝鮮半島で滅ぼされた百濟を救援するため、日本は援軍を送りますが、唐と新羅の連合軍と戦い、大敗します(白村江の戦い)。その後、唐・新羅の連合軍が日本にまで攻めてくることを恐れた日本の朝廷は、西日本の各地に城をつくらせました。鬼ノ城は、そのような古代山城のひとつと考えられていますが、記録が残っていないため、はっきりしたことは分かっていません。



▲復元された鬼ノ城西門



うら坊三兄弟

これまでの調査

調査年	調査主体	おもな成果
昭和53(1978)	鬼ノ城学術調査団	全体の規模、構造などが明らかになる。
平成6(1994)～	総社市教育委員会	城門・水門・角楼などの様子が明らかになる。
平成11(1999)	岡山県古代吉備文化財センター	礎石建物や鍛冶工房の様子が明らかになる。
平成18(2006)～	岡山県古代吉備文化財センター	多量の土器の出土。大形建物や鍛冶工房などの詳細が明らかになる。

今年度の調査

今年度は、城内の北端部付近で2か所の発掘調査を行います。今回見ていただく場所(C1区)では、第5水門の内側に築かれた土手状遺構の構造の解明、今後調査するC2～4区では、北門から城内中央部へと至る通路や、各種施設の有無を確認することを目的としています。

※この資料の引用・転載はご遠慮ください。



みこちゃん

鬼ノ城のつくり

土塁や石垣でつくられた城壁が、山頂近くを鉢巻状に取り囲んでいます。その長さは全周約 2.8 km、囲まれた城内面積は約 30.6ha あります。城壁の東西南北4か所には城門をひらき、また雨水を城外へ排水するための水門が6か所設けられています。

城内の中心部には礎石建物7棟が確認されるほか、東部には鍛冶工房が営まれたことも分かってきました。



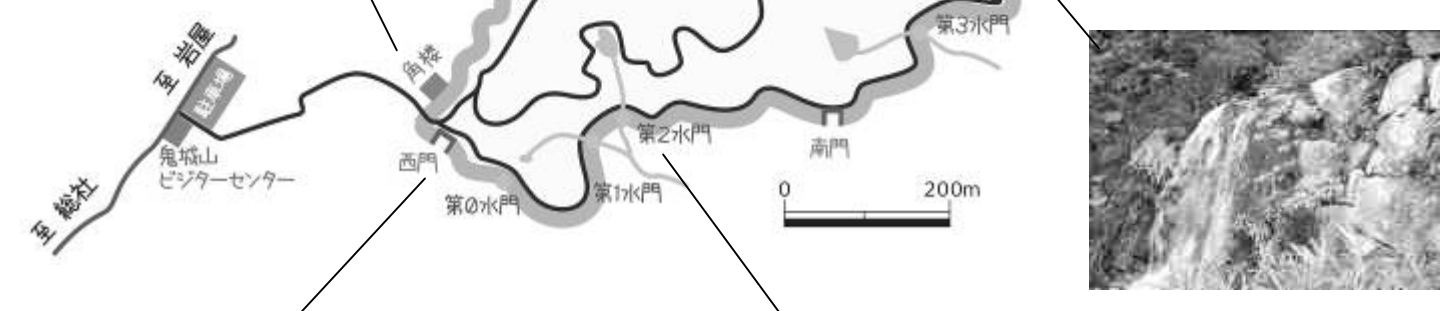
礎石建物：城の管理棟と、食料などを貯蔵した倉庫があわせて7棟見つけています。



屏風折れの石垣：城壁を外に突出させ、高い石垣を築いています。見張り台などの施設でしょう。



角楼：城の背後を守る施設と考えられます。（復元）



鍛冶工房：たくさんの炉を築き、城内で必要な鉄の道具を製作した工房の跡です。



西門と土塁：発掘調査の成果をもとに復元されました。



水門：雨水で城壁が壊れないように、城外へ排水する施設です。

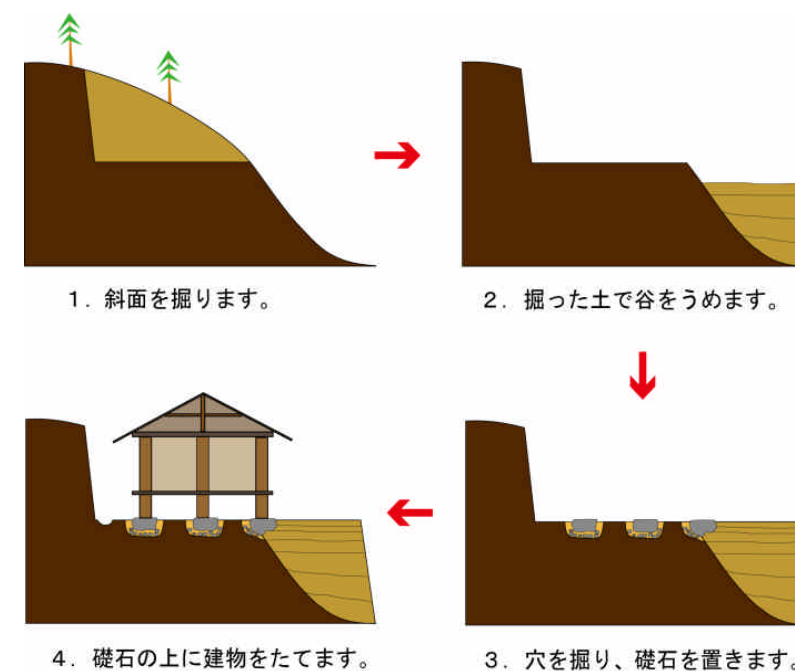


城内の建物

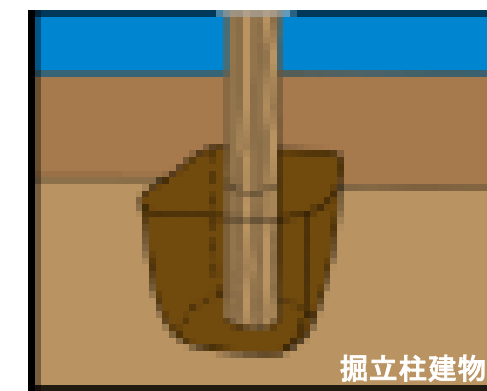
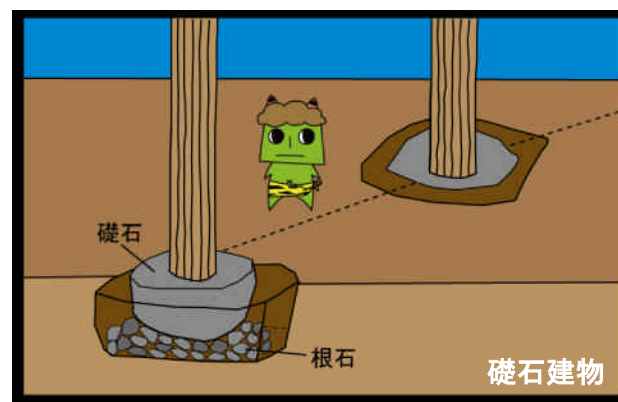
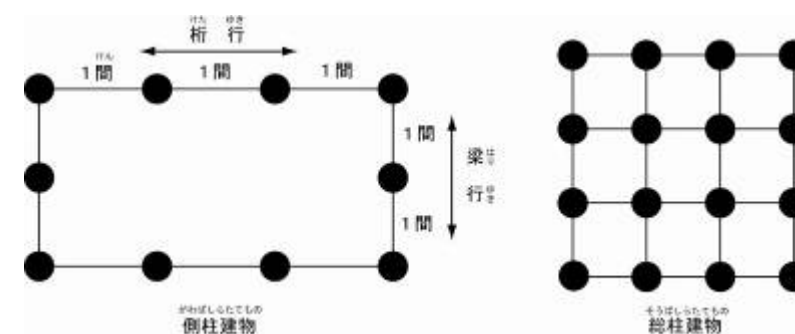
古代の建物は、柱のたて方の違いによって、掘立柱建物と礎石建物に分けられます。鬼ノ城でも、両方の建物が見つっています。

鬼ノ城は山の上につくられた城で、斜面の多いところ。そのため建物をたてる時には、大規模な造成工事を行っていたことがわかりました。

建物は柱の配置によって、総柱建物と側柱建物にわけられます。総柱建物は、柱が建物の内側にもあり、重さに耐えられる建物で、倉庫に使われていたと考えられています。側柱建物は、建物の外側にだけ柱がある建物で、人が住んだり、仕事をしていたと考えられます。



城内での礎石建物のたて方



第5水門

鬼ノ城では、城壁沿いに6か所の水門（第0～5水門）が確認されており、今回の調査区の外側にあるのが第5水門です。石垣のかなり高い所に作られた排水口は現在では機能しておらず、水は城壁の底をつきぬけて流れています。国内の他の古代山城では、排水口は城壁の一番下に設置されることが多く、このような高い位置にある例は少数です。

